

## 薩摩川内市定住自立圏共生ビジョン抜粋

(平成22年3月策定、平成25年3月改定)

### 第2章 圏域の将来像

#### 1. 定住自立圏の形成に向けた基本的な考え方

本圏域は、都市機能が集積している地域、みどり豊かな農山村や趣のある温泉街地域、変化に富んだ海岸線を有する地域など多彩な特性に根ざす文化や風土を持つ地域から構成されており、それぞれの地域が長年にわたって貴重な資源を育みながら、多様性、個性を創出するとともに、そこで生活を営んできた人々の愛郷心によって伝統や文化が受け継がれ、それが地域の誇りとして醸成されている。

平成23年春の九州新幹線鹿児島ルートの特急全線開業や南九州西回り自動車道の整備促進により、これまで以上の交流人口の増大、通勤圏の拡大による社会的・経済的効果が期待されている。

高速交通体系の整備によって、北九州圏・関西圏との時間的距離が短縮され、定住促進や交流人口拡大の施策等について都市間の競争が一層激しくなってくると考えられる。

都市間競争に勝ち残るためには、合併により得られた都市規模の拡大によるスケールメリットを活用し、地域の一体的なまちづくりや財政基盤の強化により「都市力」を強化することが重要である。

このような中、南九州の拠点地域として、県土の均衡ある発展のため中核的な役割を担っていくため、今後、都市拠点性を高めるまちづくりを進め、地域資源を活かしながら市民や市内事業者の活力を生み出すとともに、文化的活動や福祉活動などを充実し、市民生活の一層の向上が求められている。

このようなことから各地域の多彩な価値を活かした多様なライフスタイルを提供できるよう、暮らしに必要な機能の確保【定住】を行うことにより、「住みたい・住みよい」薩摩川内圏域を創出することが必要である。

また、本圏域に受け継がれている多種多様な魅力ある地域資源や伝統等を各地域が連携して、ネットワーク化をすることにより、連携型の観光圏を創出し、経済基盤の確立や、圏域住民の誇りを確立【自立】することが必要である。

以上のことを踏まえ、次の4つの視点から圏域づくりを進める。

#### 2. 圏域づくりの目標

##### (1) 圏域づくりの方向

###### ① 子どもを産み育てる環境づくり

本圏域の人口年齢構造は、25～39歳のいわゆる子育て世代の占める割合が低いことから、持続可能な地域社会を形成する上でも、子どもを産み育てる環境づくりが重要である。

このため、関係機関と連携し、子育て支援ネットワークの充実を図るなど地域

ぐるみの取組体制の整備や子育て支援施設の整備強化，子育てに要する経済的負担を軽減する施策を推進するとともに，圏域内の定住化のみならず，都市圏などから通わせたいと思える質の高い教育環境の整備を図る。

## ② 若年者の就業の場の創出と産業振興

本圏域の流入・流出人口の年齢構造は，若者世代の流出が多いことがうかがえることから，本圏域の発展を支え，活力と活気を生み出すための産業活動を促進する必要がある。

また，多様な雇用機会の確保・創出は，若者の定住や人口の増加のための重要な条件となる。

このため，関係機関などと協調した工業団地の整備や電源立地地域としての優位性を活かした企業誘致，本圏域の有する多様な地域資源のネットワーク化による観光振興，中心市街地への交通アクセスの整備や商店街の活性化に関する各種施策を展開することにより，産業振興の充実や若年者の就業の場を創出する。

## ③ 高齢者の活躍の場の創出と安全安心なまちづくり

本圏域の人口年齢構造は，75歳以上の高齢者が占める割合が高いことから，住み慣れた地域に安全安心に住み続けることができるような環境づくりが必要である。

このため，周辺部等における地域の人材を活用した農林水産業の振興を図ることにより，高齢者の活躍の場を創出し，担い手農家や高齢者が生きがいを感じながら主体的に社会参加できる環境づくりを進める。

また，中心地域における中核的な医療機能を有する病院等の設備や機能を充実させることにより，周辺地域の病院・診療所との連携を推進し，圏域内で完結する地域医療体制の充実を図る。

さらに，圏域住民の通勤，通院，買い物や観光等のための公共交通手段の確保するため公共交通機能の充実を図る施策を展開し，安全安心なまちづくりを目指す。

## ④ 都市部等からの本圏域への人の流れの創出による定住促進

本圏域の地域の活力を維持するためには，人と人，地域と地域との交流・連携の拡大が重要である。

また，社会基盤整備において，九州新幹線鹿児島ルートや南九州西回り自動車道など高速交通体系が整備されつつあり，これらを活用したU I Jターンの促進，都市部等（鹿児島市，北部九州，関西等）からの人を呼び込む施策が必要である。

このため，シティセールスにより，本圏域の魅力を都市部等へ情報発信するとともに，都市部・中心地域と周辺地域の心の通った交流を促進，さらには，圏域の住環境の整備，通勤通学の利便性確保等の施策を展開することにより，都市部等から本圏域への人の流れの創出による定住促進を目指す。

## (2) 将来像

圏域の有する「多彩な特性と基盤の蓄積」を最大限に生かし、それぞれの潜在能力を更に向上させるとともに、中心地域と周辺地域のお互いの役割分担と連携により相乗効果を高め、「スローライフ」に代表されるような地域内のどこに住んでも満足できる豊かで多様なライフスタイルを提案することにより、人口の流出を食い止めるとともに、当圏域への人の流れを創り、圏域全体の均衡ある発展と自立性の高い圏域を創出することが重要である。

このような考えから、薩摩川内圏域定住自立圏が目指す将来像を「都市力の強化による定住自立圏の創出」とし、この将来像を実現するため、「集約とネットワーク」の考え方を基本として、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント強化の政策分野に取り組むこととする。

### 将来都市像：都市力の強化による定住自立圏の創出

#### 生活機能の強化



- 圏域内で完結する地域医療体制の充実
- 子育て支援施設整備やネットワークの充実
- 質の高い教育環境の整備
- 地域人材を活用した農林水産業の振興
- 商店街の活性化



- 公共交通手段の確保
- 地域連携型観光圏の創出
- 通勤通学の利便性確保
- 中心地域と周辺地域の心を通った交流の促進
- 交通アクセスの整備

#### 都市力の強化による定住自立圏の創出



- 情報発信力を有する多様な人材や組織の育成

#### 結びつきやネットワークの強化

#### 圏域マネジメント能力の強化

※都市力⇒類似の資源が集まることによる規模拡大の効果の発揮や異なる資源が融合することによる相乗効果の発揮によって、都市としての魅力が向上すること。